

## 令和5年度 第1回岐阜県生涯学習審議会 議事録要旨

### 1 日時

令和5年10月16日(月) 14:00~15:50

### 2 場所

岐阜県庁20階 2001会議室

### 3 出席者

委員の現在数13人 出席者11人

<委員>

<事務局>

委員	浅野 欽一郎	環境生活部	次長	高橋 一雅
委員	浅野 教史	環境生活政策課	生涯学習企画監	安藤 由美子
委員	衣斐 淳美		生涯学習係長	久留 亜理子
委員	奥村 佳子		主査	竹内 洋平
委員	小林 由紀子			
委員	高橋 幸平			
委員	土屋 健一			
委員	野原 徹二			
委員	堀江 弘美			
委員	米原 木ノ実			
委員	若岡 ます美			

### 4 報告

#### (1) 令和5年度 主な事業と進捗について

事務局： 資料をもとに、事業概要について説明

奥村委員： 研修について、コロナの影響もあったが元に戻りつつある中で、開催方法もオンラインで実施してきたものを今後どうするか過渡期にあるかと思う。今後の開催方法について、ご意見を伺いたい。

事務局： 生涯学習・社会教育総合推進研修会はオンラインで実施。昨年度もオンラインで開催し、参加者は150名ほど。コロナ前は集合研修で50名ほどだったのを考えるとオンラインの参加のしやすさ、実施方法として普及したことが分かる。遠方の講師を呼ぶ際もメリットがある。一方で、対面の良さもあることから、研修内容等を鑑みて実施していきたい。

小林委員： 自分自身は生涯学習コーディネーターの資格を取得しているが、相手が求めていることが分からない場合、それを引き出すことが難しいと感じ

るときがある。新人一人では難しい場合があるし、コーディネートする機会がない、相談先がないという課題があるため、新人の経験を積むうえでも、複数人でのチームとして、コーディネートができないか。また、立場や専門が違うコーディネーター同士でチームとなって取り組んでも良いのではないか。手軽に分からないことが聞ける環境があると良い。生涯学習について、ここに聞けば分かるというものがほしい。また、生涯学習と学校との意思疎通を図る難しさを感じているので、連携の取り方も課題であると思う。

事務局： 学校との連携のため推進員の配置に取り組んでいる。今後の問題が見えてきたところであるが、地域の実情に合わせながら、推進員の複数配置等を進めている。

野原委員： 市町村担当者は数年で異動するため、地域学校協働活動は、学校運営協議会等で進めてもらっている。学校のニーズと地域のニーズの擦り合わせをすることの難しさを感じており、またコーディネートする際、専門外で分からない場合もあることから、多くの立場から意見をもらえるよう、コーディネーターの横のつながりも必要であると感じている。

奥村委員： どこに何が頼めるか不明確で、そこをコーディネートしてくれる人がいない。やろうとしている人、お願いしたい人とのマッチングを行う仕組みが必要である。

堀江委員： 私にはそんなことはできない、という方も多い。経験不足からくる不安感があるのではないか。持っている能力を發揮できるような仕組みの構築や、地域の潜在人材の育成が必要と感じる。

米原委員： 登録者募集チラシを見て、登録しようと思った。ニーズがないのではと思いきこんでいる人が多いのかもしれない。大勢が求めているなくても、誰かが求めているかもしれないということもあるので、新規登録者を増やしてもらいたい。

野原委員： 本巢市では、地域の人材として子どもの学びサポーターに90名登録してもらっている。また今年度は企業にもお願いをし、職場体験の場等を提供いただいている。

7月にはサポーター交流会を開催し、横のつながりを目的に情報交流を実施したところである。マッチングの難しさはあるが、一歩ずつ進めている。

高橋会長： いろいろな方々が地域に入っていらっしゃると思う。このような取り組みを、いろいろなところで進めていけると良い。

奥村委員： 登録した方の活躍の場の創出が必要であると思う。コーディネーターも、実践をしながら学んでいる。商工会の女性部でも、各地区の方々に先生をご紹介いただいて、地域を学ぶ活動を実施したところ、やってみたら

違うという実感があった。

小林委員： 教える側もマナーを学ぶ必要がある。学校、公民館側から、それぞれの決まりなどの必要なことを教えていただく必要がある。

浅野副会長： 庁内の各事業の情報や実績等を知ることはできるか。

事務局： 実績等は生涯学習のホームページには載せていないが、問い合わせがあればお答えできる。また、各課のホームページには、行っている事業について載せてある場合もある。

浅野副会長： 県の事業を広げていきたいということであれば、参加したい人が簡単に調べることができるものが必要でないか。登録だけではなく、広げていく必要があると思う。

浅野委員： 関市市民活動センターでもコーディネートをしているが、市町村のコーディネーターに関する情報と、県のコーディネーターに関する情報とが連携できていないのではないか。

高橋会長： 県のハブとしての機能についても、期待したいところである。

衣斐委員： ゴールや目的を共有して実施してもらう必要があると感じた。地元には何が必要かと考えたうえで、講師をお願いしていただく必要がある。情報を自分から探しに行く人でないと、ホームページなども見ないので、多くの人々が情報に触れる機会を作ることが大切である。

若岡委員： 市とは身近なものでつながりがあるが、県とのつながりはなかなかない。市がやっているものを県がどう取りまとめ、県下に発信していくか考える必要があると思う。

土屋委員： 県民が必要な情報を必要があるときに把握できるか、県がどう紹介できるかが重要だと思う。

高橋会長： 事務局は皆さんのご意見をいかして、取り組んでいただきたい。

## 5 議事

### (1) 岐阜県生涯学習振興指針（令和5年3月改定）に係る審議テーマについて

事務局： 資料をもとに説明

高橋会長： 審議テーマ・スケジュールについてご意見は。

奥村委員： テーマは良いが、やってきたことの発表だけでは課題へのフォーカスができないのでは。サブテーマ等を決めポイントを絞って実施した方が良いと思う。

高橋会長： サブテーマを持つことに対して事務局の考えはどうか。

事務局： テーマ自体は広く設定しているので、サブテーマを設けるのは良いかと思う。

高橋会長： 審議テーマとして案のとおりでよろしいか。

(委員、了承)

- 高橋会長： サブテーマについてご意見を。
- 奥村委員： 事務局はリーフレットの目的、着地地点をどう考えているか。
- 事務局： リーフレット作成は当審議会では初めての試み。リーフレットを手にとっていただいた方に、地域づくり型生涯学習として、どのようなことができるかイメージを持ってもらえることが目的と考えている。  
いろいろな視点からとらえたものとして作成できれば良いかと思う。
- 堀江委員： 基本方針が3つあるが、そのような観点でまとめるのか。
- 事務局： リーフレットの構成まで、まだ詳細を決めているわけではないが、実践発表をいただいた内容を、基本方針を中心にまとめる形でも良いし、各主体を切り口として、循環づくりにつなげて良いと考えている。構成については、今後リーフレットの構成決定段階で委員の方々にご意見をいただきつつ進めていきたい。
- 奥村委員： 切り口で違ってくると思うので、すり合わせが必要であると思う。
- 高橋会長： リーフレットを見た方が、参加したい、やってみたいと思うような、分かりやすさが必要である。
- 浅野副会長： 対象は、県民か、指導者か。
- 事務局： 幅広く、見ていただければと思っている。  
地域づくり型生涯学習の活動の良さを分かってもらえていない現状があるので、まずはそれを広めていきたい。多くの視点はあるが、「地域づくり型生涯学習」と「学びと活動の循環づくり」をおさえていただければと考えている。
- 浅野委員： 見た人がどういう行動を起こすことを想定しているか。リーフレットを作成しただけになってしまうよう、落としどころを決めたうえで実施していく必要がある。
- 高橋会長： 作っただけにならないようにする必要がある。
- 野原委員： 作ったものが見られずに山積みになって廃棄されてしまうことのないようにしないといけない。  
今回の指針では、「地域づくり型生涯学習」を定義し、自己の学びや地域への発信について書かれている。日ごろの実践を出し合って交流し、基本方針1～3に整理しながらまとめることで、地域づくり型生涯学習の発信につながるのではないかと思う。
- 小林委員： 全員に向けてというのは難しいと思うが、今絞り込んでいくのは難しい。共通の設問設定等でつながりを持たせたり、対象を絞っても良いかもしれない。
- 衣斐委員： 実践発表はこの生涯学習審議会の委員だけに限定するのか。
- 事務局： 現審議会委員の方々が、いろいろな分野でご活躍されているので、審議会の中で実践発表・交流を考えた。

実践発表をしながら、どのような整理をしていくかも検討できればと考えている。

米原委員： 実践発表・交流後の検討の場で、サブテーマについてなど、今後整理していけるのではないかと思う。

若岡委員： 県のHPへのアクセスが少ないことからリーフレットというのも分かる。ライフステージにより学びと活動も違うので、すべてを対象にしていくのは難しいかと思う。連携してネットワーク化というのでは、他の研修等でも実施しているので、過去にあるものを活用することもできるのではと思う。

土屋委員： 3年後に作成ということであるが、メンバーも変わると思うが、それでも良いか。

事務局： メンバーが変わった後も連絡を取りながら進めていく予定である。

奥村委員： 指針の7ページにあるように、生涯学習が日々の生活の中にあるということを普及することも意味があると思う。自分たちが、県民として目指すものが発信できるのであれば、取り組んでいきたいと思う。

高橋会長： 審議テーマ、スケジュールを承認いただけるか。  
(委員、了承)

高橋会長： 事務局は、着実に進めていただきたい。

[以後、事務局に司会進行を戻す]